

自然環境保全基礎調査費（拡充）

400百万円（250百万円）

自然環境局生物多様性センター

### 1. 事業の概要

(1) 本調査は、1973年から概ね5年ごとにわが国の自然環境の状況とその変化を継続的に把握し、保護地域の整備、野生動植物の保護管理に必要な基礎的なデータを提供してきたところ。

(2) COP10では、生物多様性の評価を可能な限り客観的に行う旨、ポスト2010年目標で示される予定であり、生物多様性に関する科学的な基盤の強化の重要性についても議論される予定。

こうした点を踏まえ、客観的な評価が可能となるよう、我が国においても、従来の調査に加え、以下の取り組みを行う。

温暖化や3つの危機（人間活動や開発・人間活動の縮小・外来種等の侵入）の影響を把握する指標となる生物群を抽出し、その変化を調査するとともに、

衛星や航空機を利用した広範囲な自然環境の概況を把握する手法（リモートセンシング技術の利活用）を確立する。

### 2. 事業計画

調査等	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度～
生物多様性の危機に関する調査 ・調査対象種選定 ・モデル地域における試行調査の実施 ・全国調査実施	■	■	■	■
自然環境概況調査 ・全国の植生概況の効率的把握手法の検討 ・手法の確立と植生概況調査の継続実施	■	■	■	■

### 3. 施策の効果

- ・生物多様性国家戦略の履行及び2010年目標及びポスト2010年目標達成並びにそれら評価のために必要となる詳細な科学的基盤情報を提供する。
- ・わが国の生物多様性が健全な状態で保全されることにより、生物多様性が有する様々な機能（生態系サービス）が最大限に発揮され、豊かな国民生活の維持に貢献できる。

# 自然環境保全基礎調査(拡充)

わが国の自然環境の状況とその変化を継続的に把握・生物多様性に関する施策の基礎データを体系的・継続的に収集(1973年から概ね5年ごと実施)

2010年から第8回の調査では、第三次生物多様性国家戦略の履行、2010年以降の生物多様性目標の達成状況の評価のため生物多様性の状況を的確に把握

## 第8回自然環境保全基礎調査(2010年~)

生物多様性の危機に対応した  
指標生物等の調査

人間活動や  
開発

外来種

人間活動の  
縮小

地球温暖化

これまでの基礎調査  
データとの比較など  
による解析



自然環境概況調査  
全国の自然環境の概況  
の効率的な把握

等

わが国の生物多様性の状況と  
その変化を評価

国内

- ・第三次生物多様性国家戦略の履行状況の評価
- ・保護地域指定等の施策の実施

地球規模

- ・CBDポスト2010年目標の達成状況評価
- ・地球規模生物多様性概況(GBO)

生物多様性保全施策への科学的基盤情報の提供